

本日、東洋大学附属牛久中学校第12回入学式、牛久高等学校第63回入学式にあたり、一言ご挨拶いたします。

多くのご来賓、保護者の皆様のご臨席をいただきまして、盛大かつ厳粛に挙行できますことは、本校として慶びとするところです。壇上からではございますが、心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、担任の先生から氏名を呼ばれました中学校41名、高等学校516名の新入生の皆さん、入学、おめでとうございます。保護者の皆様におかれましてもお子様のご入学、誠におめでとうございます。私たちは、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

本校は1964（昭和39）年に創立され、中学校は本校創立50周年を期して、2015（平成27）年に開校して、今回12期生を迎えることとなりました。

哲学館・東洋大学を創立した井上円了先生は、「諸学の基礎は哲学にあり」として、「独立自活」「知徳兼全」の精神を培うことを目指してきました。

学祖井上円了先生は、「哲学は知りたいという気持ちであり、それを究めていくことが真理に至ることであり、哲学は結論ではなく出発点である」とされました。また、円了先生は、最初の欧米視察では「欧米各国のことは日本に安座して想像するとは大いに異なるもの（海外のことは日本にいて想像するだけではなく、実際に見て体験しないとわからない）」として、「体感」の必要性を実感され、現実世界を活きたテキストとして学び、活きた学問とする「活書活学」を提唱されました。

本校では、現在「探究」と「ウェルビーイング」をコンセプトに教育活動を進めています。円了先生の考えを踏まえて、哲学教育を出発点に探究していく姿勢を育て、そのことを通じて情操を高尚にして、創造力を高め、精密な思想を構築して未来を展望する人材を育てていきます。

本校では、8年後の創立70周年に向けて特色化を進めているところです。教育現場の課題として、「多様性への対応と共通性の確保」がいられています。本校では特別進学、グローバル、進学、スポーツサイエンス、中高一貫の五つのコースを設定して、それぞれのコースの特性を生かし、生徒のニーズに応じた教育活動を展開してきました。「多様性への対応」として、今年度新たに進学コースに理系教育に特化した理数フロンティアクラスを設置しました。「共通性の確保」として、将来を見通したキャリア形成のために、文理融合の課題解決型STEAM教育や、アントレプレナーシップ教育の展開を進めています。

今年度、本校は文部科学省より「文理融合型スーパーサイエンス・ハイスクール」の指定を受けました。研究主題は「総合知に基づく哲学思考とデータサイエンスの融合プログラムの研究開発」です。これからの「生成AI時代」を生き抜くことが私たちに問われています。このために、ICT、AIなどデジタル技術を使いこなして、全ての生徒が「なぜ、なぜ、なぜ」の哲学教育をベースとした探究する姿勢を育み、「学びの最適解」を探る手法として、「問いを立てる力」を育成していこうと考えています。「読解力」と訳されることの多い「リーディング・リテラシー」のOECDの定義によると、「目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」（OECD 2002）とされています。読み取るだけでなく、それをもとに自分の意見を述べ、主体的に社会参加の行動に結びつけることが必要です。

先ほど「生成AI時代」を生き抜くことが問われていると申し上げましたが、生成AIを使用することで膨大な電力が使われていることを、我々は認識しているのでしょうか。生成AIを使用するには

独特のリスクがあり、便利ではあるがために電力を無自覚に消費してしまうため、使用量が想像以上に増大することで、地球温暖化につながる可能性があるという意識を持つ必要があります。

本校生徒の育成の大きな目標にSDGsへの対応として「地球規模で思考のできる真の国際人の育成」を掲げています。このことに気づいて、どのような解決策があるのかを考えてほしいと思います。

自ら学び、これからのグローバル社会でたくましく生き抜くとともに、自立した社会人として積極的に自分の役割を果たす人間になること。地球規模での課題を解決していくためには、21世紀に生まれ、21世紀の社会を支えていく皆さんの一人一人の力にかかっています。そのためには主体的に学ぶ姿勢を持ってほしいと思います。

中国、前漢の武帝の時代に淮南王・劉安が編纂させた思想書に『淮南子』という書物があります。これは、道家思想を中心に、儒家・法家などの諸子百家の思想を融合させた百科事典的な性格を持ち、現代でも座右の銘とされる名言が多く含まれています。

剣は砥を待ちて 而る後に能く利なり

どんな名剣であっても、砥石で研がなければ鋭い切れ味は生まれない。

人間も同様に、優れた才能を持っていても、学問や修養を積まなければその真価を発揮できないという意味です。

入学してきた皆さんには、優れた才能がありますので、砥石である本校で、仲間とともに切磋琢磨、磨き上げてほしいと思います。また、

学ぶに暇あらずと謂ふ者は、暇ありと雖も亦学ぶこと能はず。

勉学しようと思っても仕事が忙しくてその時間が取れないと言うような者は、仮に時間があってもとても勉学することはできない。忙しくて勉強する暇・時間がないという人は、時間ができても勉強しないものであるという意味です。

学ぶ時間、砥石で磨いていく時間は、自分自身で作っていくことになります。忙しくて勉強する時間がないという言い訳はできません。勉強する時間は自ら作るもの、自分で管理するものです。

これからの学校生活について、皆さんは自分自身の行動規範をしっかりともち、将来のあり方生き方を考え、夢や希望を実現するために、よく学び、仲間と協力し、心も体も鍛えていきましょう。そのためにも、望ましい生活習慣を身に付け、節度を守り心身ともに健康な生活を送るよう心掛けてほしいと願います。

さて、保護者の皆様、お子様のご入学、改めて誠におめでとうございます。子どもたち自身も、今日のこの日を迎えて、一歩大人に近づいた、成長したということを実感していることと思います。

子どもたちの健やかな成長のためには、学校・家庭・地域の三者が、それぞれ連携していく必要があります。お子様の学校生活で、ご心配やまたご不安なことがあれば、どうぞ遠慮なくご相談ください。

私どもは、保護者の皆様とともに、子どもたちの豊かな成長を助けていきたいと考えています。そして、6年後、3年後には成長した姿を祝っていただきたいと思います。

結びに、保護者の皆様、本校の教育に、一層のご理解とご協力を賜りますよう改めてお願いを申し上げます。本校に対する皆様方のご期待に応える教育を進めていくことを、ここにお誓い申し上げて式辞といたします。